

プロジェクト研究室の菅波孝祥准教授が「東京医科歯科大学優秀研究賞」を受賞しました

本学では今年度より優れた研究成果をあげた教員に対して、その功績を表彰することにより、本学の若手教員の意欲向上と本学の研究の活性化を図ることを目的として「東京医科歯科大学優秀研究賞」を設けました。

プロジェクト研究室の菅波孝祥准教授は栄えある第一号として、第3回東京医科歯科大学ホームカミングデイ（H24.10.14 開催）において大山学長より表彰されました。



受賞理由

菅波孝祥准教授は、平成 15 年度より難治疾患研究所にて研究活動を開始し、生活習慣病の病態生理の解明と新しい治療戦略の開発に関する分子医学的研究に従事してきた。

特に、生活習慣病の上流に位置する肥満の脂肪組織において、脂肪細胞とマクロファージの相互作用により形成される慢性炎症の分子機構を明らかにした論文は、2005 年の *Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol.* 誌の表紙として採用され（平成 24 年 7 月現在の被引用回数 274 回）、この研究成果に対して 2006 Werner Risau New Investigator Award in Vascular Biology（アメリカ心臓協会）を受賞した。

菅波准教授は、飽和脂肪酸が単なる栄養素でなく、炎症性アディポサイトカインとして脂肪組織局所や全身臓器の慢性炎症を惹起すること、一方、魚油に多く含まれる n-3 多価不飽和脂肪酸は飽和脂肪酸に拮抗的に作用し、炎症抑制性に働くことを見出し、基礎研究と臨床研究の両面で証明した。このような臓器代謝ネットワークの破綻の分子機構の解明や慢性炎症を標的とする新しい生活習慣病の治療戦略の開発に取り組み、その研究成果は国際誌に掲載されるとともに、成人血管病研究振興財団 岡本研究奨励賞（平成 21 年）、日本肥満学会 学術奨励賞（平成 23 年）、

日本内分泌学会 研究奨励賞（平成 24 年）など多くの受賞により評価されている。

このように、菅波准教授は、内分泌代謝学の観点よりトランスレーショナルリサーチに取り組み、国内外の研究者との共同研究にも積極的に参画して、関連研究を発展させつつある。菅波准教授が中心となって開発した「脂肪細胞とマクロファージの共培養系」（特許第 4862160 号）は、メタボリックシンドロームにおける慢性炎症の分子機構の解明や新しい治療標的の探索に有用であり、製薬企業等との共同研究に活用されている。さらに、平成 24 年度より独立准教授として、生活習慣病の克服を目指す研究活動に主体的に取り組んでいる。

以上の理由により、菅波准教授を東京医科歯科大学優秀研究賞に値すると判断された。